

くまもと経済

C 表紙の人
Cover Story

野村 俊巳
顧客本位の業務運営でコンサル機能強化
熊本銀行頭取

1 2020
月号

VOL.463

必読
業界・分野トップに聞く熊本の2020年
熊本展望
2020

KUMAMOTO 新春グラビア

つ な ぐ

熊本 2020 新時代へ

広告企画 2020新春誌上名刺交歓／熊本学園大学同窓会・志文会特集



光合成細菌培養キット「くまレッド」を手に古賀社長。球磨郡あさぎり町出身で「事業を通じ地元の活性化に貢献したい」と話す



細菌(左)と焼酎粕を混ぜ使用するくまレッド。従来、高価な光合成細菌だが、製造方法の工夫で低価格化を実現した



▲崇城大キャンパス内にある事務所兼研究室兼ショールーム。スタッフは同大学院生の後藤みどり専務含め5人。いずれは自前の事務所を構えるのが目標だ



大学院生との「二足のわらじ」を履く古賀社長。設立3年目の20年は黒字化が当面の目標だ

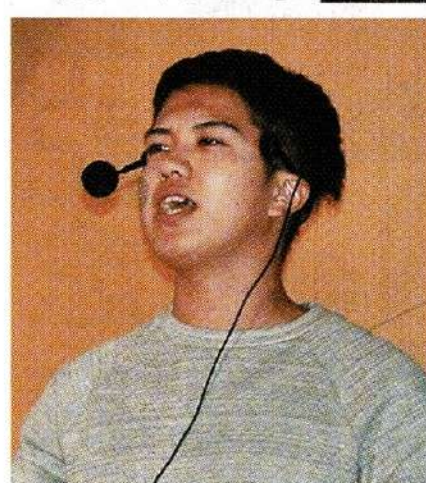
球磨焼酎粕で培養する光合成細菌キットの研究開発・販売、(株)Ciamo(しもも、西区池田)の古賀碧社長(25歳)は、崇城大学大学院工学研究科博士課程に籍を置く現役の大学院生だ。同大起業部在籍時に国内のビジネスプランコンテストで2度優勝、周囲の声にも推され、18年4月に設立した。同細菌は農水産物の収量増などが見込め、現在、国内約200の生産者と契約。病気に強いクルマエビの養殖にも有効だという。海外にも目を向け、「20年はタイでの事業化も見えてきそうです」と笑顔を見せる。(編集部・川野敬之)

第6回崇城大ビジコン

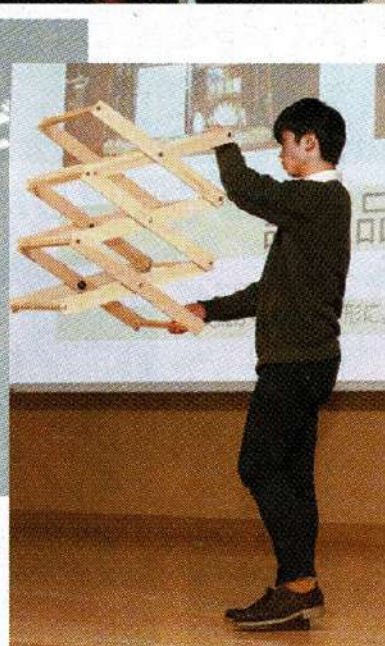
学生らが熱気あふれるプレゼン披露



中山峰男学長と記念写真に納まる優勝チーム「P&A」の後藤みどりさん（左）岩井蘭子さん（右）。同チームは県知事賞も受賞した。



▲ステージ上では、学生らの熱気あふれるプレゼンが披露された



▶準優勝を獲得したチーム「Agoru」。左から応用生命科学科2年穴井亜斗夢さん、中山学長、建築学科2年深見元さん、情報学科2年中村凌大さん



▲唯一の高校生チームとして出場し、日本総研賞を受賞した熊本マリスト学園高校の「チーム村井」の面々



▲出場チームには協賛後援企業から各賞が贈られた



▲会場には、学生らのプレゼンを聞こうと多数の来場者が詰めかけた



▲真剣な表情でプレゼンに聞き入る審査員ら

崇城大学（熊本市西区池田4丁目、中山峰男学長）は12月14日、同大SOLAホールを会場に第6回崇城大学ビジネスプランコンテストを開催した。

起業を目指す高校生、高専生、大学生、院生らを対象に毎年開催しているもの。当日は2次審査を勝ち抜いた8組が、それぞれのビジネスプランを披露。選考の結果、優勝は同大学院工学研究科応用生命科学専攻1年岩井蘭子さんと同専攻2年後藤みどりさんのチーム「P&A」が発表した「光合成細菌由来の藻類活性化剤」が、準優勝は同大工学部建築学科2年の深見元さんらのチーム「Agoru」の「夜市やマルシェ向けのイベントテントの開発」が受賞した。

県立熊本西高校と包括連携協定

崇城大学とSCCBラボ

崇城大学（熊本市西区、池田4丁目中山峰男学長）ならびに一般社団法人SCCBラボ（熊本市西区池田4丁目（崇城大学内）嶋田英敬代表理事）は12月13日、県立熊本西高校と、イノベーション教育に関する包括連携協定を締結した。県内の県立高校との協定締結は初めて。

高校生を対象としたイノベーション教育の推進を目的としたもので、SCCBラボが運営

するSCCBイノベーションアカデミーの地域活性化人材教育プログラム・SCCB理論、情報発信のためのコンテンツ製作、ICT技術などの学習機会の提供のほか、イノベーション創出のための施設の運営・活用を協力して行うとしている。同アカデミーは、熊本市中央区桜町の coworking space・THE CAMPANYで、来年四月から開校を予定している。



▲左から田尻博子一般社団法人SCCBラボ理事、中山峰男学長、柿下耕一県立西高校校長、SCB理論提唱者・星合隆成崇城大学情報学部教授



▶調印式席上あいさつする中山峰男学長